

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

長野県高校総体 IN 八ヶ岳 (編笠山・西岳)

今年の長野県大会は5月31日から6月2日にかけて八ヶ岳編笠山と西岳を会場に開催された。夜は雨が降ったが、昼間には上がって、頂上からの景色も十分に楽しむことができた。結果は男子県ヶ丘が6連覇、2位が大町、3位が屋代。女子も県ヶ丘が優勝、2位は屋代、3位が長野西という結果だった。インターハイ、北信越大会でも十分楽しみながら活躍してくれることを期待したい。我が池工も正規チームのほかにも3チームを出すことができ、正規チームは4位と頑張ってくれた。その前の週に下見に入ったときは、へろへろになって編笠の登りでは「本番には来たくない」などと弱音を吐いていた1年生たちが、全コースをちゃんと歩き通して帰って来たのは何より嬉しかったし、その後も元気に部活を続けているのは頼もしい限り。後輩部員が増えるというのは生徒の中で、切磋琢磨をする気運が盛り上げ、部活そのものに活気が出てくるし、上位大会にあと一步という先輩たちの活躍も後輩たちに励みとなっている。その意味で我が池工にとっては、かなり有意義な今年の県大会であった。そんな生徒たちと、今週末は、ゆっくりと地元の里山を歩こうかなと計画をたてている。

66 回目のウエストーン祭

6月2日午後、県大会から帰ったその足でそのまま上高地へ向かった。というのは、とある人物からウエストーン祭に出ないかと誘われたからである。とある人物というのは我が高校時代の恩師、小林俊樹先生なのだが、先生曰く「今年66回目を迎えるウエストーン祭において極めて貴重な写真が見つかったので、そのことを君にも知ってもらいたくて誘った」とのことである。先生から声がかかったのは県大会の会場で翌日の登山行動の打ち合わせをしている31日の晩のことだった。あまりに急なお誘いではあったが、先生は、僕の山人生においても国語の教師としても尊敬すべき恩師である。断ることなどできるべくもない。

日本山岳会信濃支部の重鎮である先生は、日地出版の北アルプスの地図や北アルプスの本を書くなど、山岳研究者としても一家言を有しているのだが、先生によれば、昭和22年6月という裏書きのあるその写真は、岐阜にお住まいだった今は亡き日本山岳会の会員のお宅から見つかったという。上高地のウエストンの像を知らぬ山好きはいないと思うが、このウエストーン像は、実は数奇な運命を辿ったのだそうである。日本山岳会の創設と発展に関わったウエストーンを顕彰するこのレリーフは、昭和12年に制作者の佐藤久一朗と楨有恒らによってとりつけられたそうだが、太平洋戦争中の17年、戦時下故の特殊事情で17年に密かに撤去され、日本山岳会のルームに保管されていたそうである。しかし、20年5月に空襲を受けウエストーン名の部分が焼失していたのだそう。それを復元、取り付けたのが22年6月のこと。これが第1回のウエストーン祭ともなるのだが、なんとその折り、当時の松方三郎日本山岳会会長がハシゴを登り焼失した氏名部分に木板をはめ込み「ウエストーン師之像」と墨書している写真が先生の元に届けられ

た写真なのだという。この写真の持ち主が、写真の由来を知りたくて地元の岐阜新聞に持ち込み、松本市山岳観光課に問い合わせたものの事情はわからず、困った観光課から調べて欲しいと白羽の矢が立ったのが、我が小林先生であったというわけだ。

祭り当日の3日は、地元安曇小学校の子どもたちの歌声が響き渡る中、10時からおよそ1時間あまりウエストーンをめぐるいくつかのセレモニーが行なわれた。新緑の上高地には多くの山仲間が今年もまた集ったのだった。(なお、このことについては、小林俊樹氏が、松本平タウン情報の6月12日剛の展望台に書かれているので参照されたい。)

県内クライミングの話題3題

1) 笠原大輔選手第26回リード・ジャパンカップ3位

6月9日から10日の両日、岐阜市特設山岳競技場で開催された第26回リード・ジャパンカップ(ぎふ清流国体 リハーサル大会)には130名の選手が出場した。この大会に出場した大町高校OBの笠原大輔選手が見事3位になった。中嶋スポーツクライミング委員長の話によると、これでワールドカップ出場権獲得は確実と思われるということだ。日山協のHP(<http://www.jma-sangaku.or.jp/news/2012/06/26-4.html>)には表彰台に並ぶ上位3選手が並んでいる。

2) ジュニアクライミング大会

6月17日、県内で初めて「ジュニアクライミング大会」が開催される。対象は男女ともに小学生である。佐久平ロッククライミングセンターで行なわれるこの大会には22名がエントリーしている。主催は長野県山岳協会となっているが、実質的には森山さん、浅井さんのご尽力で開催に漕ぎ着けた。NBS長野放送からもバックアップもしている。大会は9時にスタートする。

3) 長野県クライミング大会2012 兼第67回国民体育大会長野県予選会

6月24日には小谷村の「ちゃんめろウォール」で標記大会が開催される。種別はM I(オンサイトグレード5.11以上)、M II(オンサイトグレード5.10以上)。成年男子は笠原、橋本、中嶋渉に加え今年から中嶋徹選手も加わって国体代表を巡っての熾烈な戦いが行なわれること必定。県内高校クライミングをしている方々、M I観戦をしがてらM IIに出てみませんか? 高校生の参加も大歓迎。詳しくは長山協HPをご覧ください。

編集子のひとごと

NHK長野放送局の制作する「しるしん」で、白馬岳遭難を検証する番組を作り立ちなので、取材協力をしてほしいという依頼を受けた。当日の写真があれば提供してほしいということだったが、僕は端から悪天を想像し、写真は撮れないだろうと思っていたので生憎カメラは持って行かなかった。それで改めて久根さんと大西英樹さんに何か当日の天候変化を証明できるような写真はないか問い合わせた。当日はすでにこれまでも書いたように我々のパーティと遭難したパーティは肉薄しているのだが、改めて大西英樹氏から提供された写真を見ると、船越の頭で下山準備をしている我々の足下に小さく、下部の稜線を登ってくる6人パーティが映っているのが確認できた。今回の遭難事故の原因の一つは気象にあるのは間違いないが、しかしこの遭難を我々はいくつかの点で胸に留めておくべきである。どのような内容になるか、僕はこれまでかわらばんで述べた内容を話したが・・・放送は今週15日(金)、午後7時30分とのことである。(大西記)